

児童発達支援ガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員: 4名回答、回答率 100%

保護者様: 34名回答、回答率 94%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・個室や訓練室には十分な広さがあり、構造化を意識した環境構成を行っている
- ・プログラムに集中して取り組めるよう、パーテーションで個室を作ったり、移動しやすい動線を確保している
- ・訓練室には視覚的に刺激になる物は掲示しないようにしている

○業務改善

- ・職員間で改善案などがあった際は、その都度共有するようになっている

○適切な支援の提供

- ・階層別研修やeラーニングで幅広く学ぶ機会がある
- ・専門家(OT等)に実際の支援を見て助言をもらうことで、支援の質の向上を図っている
- ・児童発達支援管理責任者だけでなく、全職員の意見を取り上げながら、子どもと保護者のニーズや課題を分析し、個別支援計画を作成している
- ・全員分の個別支援計画を表にまとめており、全員が確認できるようにしている
- ・個別療育が主ではあるが、小集団療育の時間も設けており、他者との関わりが課題となっている児童については、集団活動の課題も個別支援計画に盛り込んでいる
- ・支援終了後にお子さんの様子について等気になる点、共有事項があった際にすぐに保護者へ共有を行っている

○関係機関や保護者との連携

- ・幼稚園や保育園との連携は保護者の希望に応じて積極的に行っている
- ・保護者からの要望があれば、小学校へ提出する就学支援シートへの記載し情報共有を行っている

○保護者への説明責任等

- ・支援ごとに、10~15分の保護者へのフィードバックの時間を設けており、支援の様子を伝えるとともに、最近の家庭や園での様子について尋ね、情報共有を行うことで共通理解が持てるように努めている
- ・フィードバック時にお困りごとがある様子であれば、事業所内相談について説明し、個別で面談をする機会を設けている
- ・保護者会の開催はできていないが、保護者同士が連携しやすいように待合室のレイアウトを工夫している

○非常時等の対応

- ・非常災害時に備え、毎月1件定期的に、防災訓練を実施している
- ・全利用者に服薬や予防接種、てんかん、アレルギー等の情報を確認し、フェイスシートに記載している

保護者様のご意見

○環境・体制整備

「入口がそこまで広くなく、大きな段差があるため、バリアフリーとは言えない」「日曜日も開所してほしい」との意見も頂いたが一方で「授業を行う人数が適切である」との意見も頂き8割以上の方に現状に満足していると回答いただいた

○適切な支援の提供

「支援計画の内容によっては、他児に足並みをそろえて計画通りと言えない」「職員によっては得意不得意を理解し、具体的に課題と対策を提示してくれるが、共有しきれていない部分がある」とのご意見を頂いたが8割以上の方に現状の支援体制に満足していると回答いただいた

○保護者への説明等

8割の方に、支援の内容等の説明について満足していると回答いただいた。「職員によっては日頃の様子を聞いてくれるが、クラスのフィードバックのみに徹する職員もいる」という意見があった一方、「家族支援があると助かる」「面談や体験、契約までスムーズに対応している」とのご意見をいただいた

○非常時等の対応

7割以上の方に、非常時等の対応、対策に満足していると回答いただき、避難訓練を定期的実施しFBしている為、保護者からの意見は特に寄せられなかった

○満足度

8割以上の方に支援等について満足していると回答いただき、「入って間もないが、子どもが自分から教室に入るようになるぐらい楽しい場所になった」との声が寄せられた

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・就学に向けた準備を行いやすいよう、年齢バランス等を考慮したクラス編成を行う
- ・特別開室日等に、年中児を対象とした小集団プログラムを新規に始める
- ・「しゅうがくじゅんび」プログラムを小集団プログラムで行う
- ・保育園、幼稚園との連携にあたって、訪問だけではなく、Zoom等の会議システムを取り入れた定期的なミーティングを行う
- ・コロナ禍の状況が続いていることから、遠隔支援を積極的に進める

○改善できた点・まだ残る課題

- ・年齢バランスやレベル感を考慮した、クラス編成を行っている
- ・特別開室時は、事前に学年を限定したプログラムを企画してはいないが、ご希望の児童のレベルが合うように編成して行っている
- ・年長児に向けた「しゅうがくじゅんび」プログラムを、土曜日1枠目に隔週で固定で実施している
- ・保護者様からのご希望があれば、保育園、幼稚園と連携して訪問を行ったり、Zoom等の会議システムを取り入れたミーティングを実施したりしている
- ・遠隔支援は、新型コロナウイルスが5類へ移行したため、行っていない

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・専門家チームの助言により、プログラムに集中して取り組めるよう、パーテーションで区切ったり、シンボルを掲示したりし、教室の「構造化」がなされている
- ・支援の際、作業療法士等の専門家の意見を定期的に取り入れて、支援を行っている
- ・限られた時間の中でも有効な支援が行われるように、行程表を多数の職員の意見を取り入れながら作成している。

○改善点

- ・プログラムの内容について、保護者の意向に添えていない場合にはなぜそのプログラムを行っているのか、全体像や流れを保護者により理解していただけるように説明を工夫する
- ・より良い支援を行っていく為に利用者の得手不得手について、保護者とも情報を共有し合い、職員間で共通認識のもと日々の支援の課題の設定や見直しを行っていく

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・プログラムの全体像や流れを保護者により理解していただけるような伝え方を心がける
- ・利用者や保護者に寄り添った支援、療育を提供する
- ・安全、安心な教室の環境整備に努める

○1年間で取り組む具体策

- ・利用者の課題や発達段階によってプログラムの内容を決めている為、その目的やゴールを細かく保護者に伝えていく
- ・利用者や保護者に安心して利用いただけるよう、日々のフィードバック時や面談等の機会を活用し、保護者と利用者の情報共有を行い記録に残すことで職員間で共有を行っていく
- ・ネジの緩み等の設備の点検を定期的に行い、安全な環境づくりを行う